

Fujizack フジザック 通信 ⑤



これは、ふじざくら支援学校から保護者の方に情報提供する不定期通信です。

【第5号】令和2年10月13日 文責：校長

9月29日……。富士山の初冠雪が甲府地方気象台から発表されました。

「山の一部が雪等の固形降水により白くなった状態が初めて見えたとき」に【初冠雪】と言うそうです。このデジタルの時代において、見えたか見えなかったかという人の感覚に委ねた緩やかな判断基準に、何とも心が癒やされます。これから富士北麓地域は秋から冬へと、その装いを変えていくのでしょう。

さて、今回はコロナ禍における本校の【学校行事】について書かせていただきます。

今年も、全校で取り組む大きな行事から、学部等で実施する小規模の行事まで、たくさんの行事を予定していたのですが、新型コロナウイルス感染症のために中止したり内容を変更したり……。かなり多くの学校行事が影響を受け、当初の計画とは違います。この2学期にも、交流及び共同学習や高等部現場実習など大切な行事があります。また、修学旅行や宿泊学習と言った泊を伴う行事や、児童生徒の学習成果を発表する場であり全校で最高に盛り上がる「ふじざくら祭」もあります。しかし、これらの重要な学校行事も、新型コロナウイルス感染症のために大きな変更を余儀なくされています。

児童生徒が、教育活動において新型コロナウイルス感染症に感染しないための方策として考えられるのは、①校外での活動を取りやめて校内に限定し、②校内の活動においても外部の人と接触しないことです。しかし、これでは2学期の行事のほとんどを実施することができません。そこで、それぞれの行事を設定する必要性について考えてみたのです。当然ですが、大きな教育的な意義があるために、毎年実施してきた行事です。このコロナ禍においても、ぜひ実施したいという確固たる思いから、それぞれの行事で何を学ばせたいのかという「学びのねらい」を明確にしました。そして、その「学びのねらい」を中心に、それぞれの行事の内容を組み立て直しました。

例えば、修学旅行や宿泊学習では、「これまでの学びを実際に体験すること」、「社会参加に向けて公共機関を利用すること」や「家庭から離れて自立した生活を体験すること」、さらに「一緒に学ぶ仲間との関係性を深める」ことなど、これまで数多くの学びを「ねらい」としてきました。しかし今回は、取り上げるべき重要な「ねらい」のみに絞り、修学旅行や宿泊学習の内容について再検討しました。その結果、これまでの学習単元の集大成として位置付けるもの、実体験を重視したもの、生活の場を共有して仲間との活動を最優先したものなど、各学部の宿泊行事の位置づけが明確になりました。例年と比べると内容はかなりスリム化していますが、コロナ禍においてそれぞれの宿泊行事の「中心的ねらい」を重視した設定になっています。

宿泊行事に限らず、その他にも内容等を大きく変更する学校行事等がありますが、この意図によるものですのでご了解ください。



県外の友人や知人から、「あなたは富士山に登ったことがあるのでしょうか?」と問われることがしばしばあります。その都度、「いえいえ、富士山は登るものではなくて、見るものですから。」と、苦笑しながら妙な答えを返しています。毎朝、国道358号線(精進湖畔)で突然姿を現す壮大な富士山……。朝日の中の雄々しく美しい富士山に目を奪われます。やはり、私にとっては「富士山は見るもの」としておきます。